

2-0 六位一体の協働

～医療環境の変革には協働が重要に～

キーワード ・ 六位一体 ・ ステークホルダー ・ 連携 ・ 協働

●このテーマで目指すゴール

- ・ 六位一体の協働を知る
- ・ それぞれとの協働のイメージが描ける
- ・ 六位一体の協働を行えるようになる

患者さんからの質問

「六位一体」の活動という言葉を知っていますが、どういう意味なのでしょう。

●六位一体の協働とは

患者アドボカシーの活動スタイルを表す言葉に“六位一体”があります。それは図 1 のように、「患者関係者」「政治家」「行政担当者」「医療提供者」「企業関係者」「メディア関係者」が一体となり、連携・協働することを指しています。この 6 つは、医療政策に関する主な当事者を列挙したものです（6 つと決まったわけではないので、人によっては他の当事者を足して 7 つ、8 つにするかもしれません）。なぜ、六位一体が大切になるのでしょうか。以下に 3 つの理由を上げます。

(1) 対立から同じ視線へ

図 2 を見てください。異なるステークホルダー（ある立場の関係者）は、向き合って対立しがちです。しかし、向き合うべき本当の相手は背景にある原因や解決を阻んでいる要因などの制約条件であるともいえます。一例をあげましょう。治療の待機時間が問題になる場合、患者も医療者も解決したいと思っていますでしょう。患者は医療者への不満を感じがちです。しかし、医療者は人手不足が原因と考え、患者に責められることを不条理に感じるかもしれません。もちろん、人手不足を解消するのは一義的には医療提供者の責務かもしれませんが、それが自分たちでできない場合、患者が環境整備に関して、応援することができます。現象の背景にある原因を排除することに、相手と共に取り組むことができるわけです。

(2) 制約条件を取り払う

例えば、政治家が動いて予算を増やせば、行政担当者が動きやすくなります。行政が予算を使って新たな医療資源の増加に関する施策を打てば、医療提供者が動きやすくなります。そして、政治家を動かすために、患者関係者は働きかけることができます。このようにひとつの引き金から異なるステークホルダーに影響が連鎖的に及ぶことで、変革が進め

られることがあります。

(3) 社会と疾病構造の変化に対応

高齢社会の進展、慢性疾患の増加などがあり、ひとつの施策やひとつのステークホルダーによる活動だけでは、問題の解決が困難な課題が増えてきています。また、こうしたシステム的な改革には、マルチ（複数の）ステークホルダーとの連携や協働によるシステム的な改革が必要な場合が増えているといえるでしょう。

●六位一体の概要

まず、六位一体のそれぞれの当事者との関係を概観します。それぞれとの関係については、本書 2-1 から 1 つずつ詳述しますので、そちらを読んでください。

〔患者と〕

患者団体が連合することで、声がひとつになり大きくなります。患者の立場の者が他の立場との連携を動かすには、患者同士が連携していることも大切になります。また、政治家や医療提供者など、他の当事者の意思統一や一枚岩化を求めるなら、まず自分たちのセクターにもそれを問いかけるべきではないでしょうか。

〔政治家と〕

ときに政治家は医療に関して重要な関係者であることが忘れられていたり、あまり期待されていないことがあります。しかし、政治家は立法府として、政策や予算を決める大きな役割を担っています。政治を動かすことで法律や予算が動き、それにより行政が動き、現場が動きだす場合もあります。

〔行政担当者と〕

行政を官僚的と批判するだけでいるのは簡単です。では、どうすれば行政が動けるようになるか、それを考えるのがアドボケートの真骨頂です。予算がない、ノウハウがない、上司の了解が得られない、当事者調整が複雑など、行政担当者が苦勞している原因を一緒に取り除くことで、前に動く場合があります。

〔医療提供者と〕

本来、医療提供者と患者の立場は、医療アウトカムの向上を願っているという意味で、もっとも利害が一致しているはずです。同時に、医療の提供者と受け手（消費者）として、あつれきも起こりがちですが、患者と医療提供者の意見が分かれている案件には、政治家や行政も手を出しにくいもの。対立しがちな状況を乗り越えることが重要です。

〔企業関係者と〕

企業は患者団体への資金と情報の重要な提供者となります。寄付の提供者としての期待のみならず、医学研究の動向や医療制度の枠組みなどに関する基礎的情報を期待することができるよう。一方で、利益相反問題に留意する必要があります。これについては、本書 4-4 「利益相反（COI）管理」をお読みください。

[メディア関係者と]

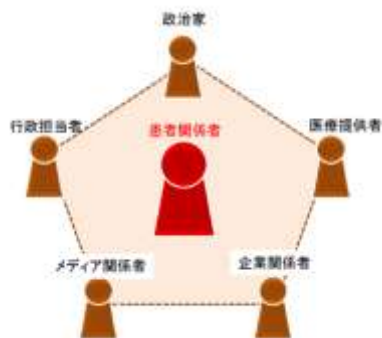
アドボカシー活動や組織の広報に関してメディアの力が借りられると、大きな効果が期待できます。単発記事で報道してもらうという比較的シンプルな関係から、連続キャンペーン企画で協力していくような仕掛けもありえます（本書 4-5「広報」参照）。市民発の社会活動を応援する記者も多く、記者が市民活動のブレーン役を果たしている場合もあります。六位一体の活動が推進されていると話題も豊富になりやすいですし、その姿勢を好感して報道が増えることも期待されます。

●協働の際のポイント

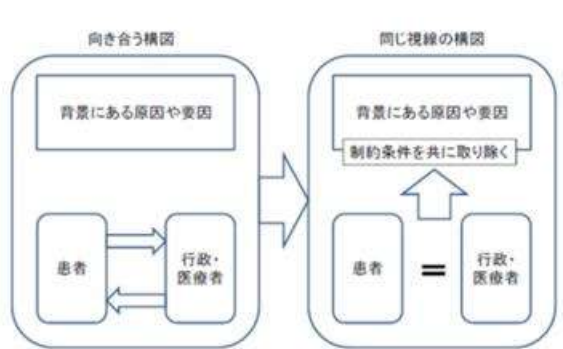
6つのステークホルダーそれぞれの間には、不満と期待の両方が存在するでしょう。そんな中で、連携と協働を進めるには、次のようないくつかのポイントがあると考えられます。

- ・同じビジョンを持っていることを、常に強調する
- ・協働活動のアウトカムが達成できれば、いずれの立場にもメリットになることを、強調する
- ・立場が異なるゆえに相互補完ができる面に意識を払う
- ・相手が協働に参加するための障壁を共に取り払い、協働のメリットが相手にも生じるようにする

<図 1> 協働の六位一体モデル



<図 2> 対立から協働への構図の変化



◇ さらに詳しく知りたい方のために

- ・がん政策情報センター『がん政策情報センタープロジェクト 第1期報告書』
<http://ganseisaku.net/report.html> (2013/10/30 アクセス)